

<全体分析>

試験時間 60 分

解答形式

記述式(16)、選択式(22)、論述式(2問/100字以内・200字以内)

分量・難易(前年比較)

分量(減少・やや減少・変化なし・**やや増加**・増加)

難易(易化・**やや易化**・変化なし・やや難化・難化)

大問数は昨年度と同じ全4題。解答数は40で、昨年度から1増えた。昨年度に比べ、選択式の設定問が1減り、記述式の設定問が1増えた。論述式問題の出題は昨年度に比べて1増え、100字以内と200字以内の2問となった。経済分野で計算問題が1出題されているが易しい。基本的な問題が増えたため、昨年度に比べて、やや難易度は易化した。

出題の特徴

ここ数年は、記述式問題に比べて、選択式問題が多かった。今年度も、同様の傾向であった。

その他トピックス

限界消費性向と平均消費性向の理解や両者の関係など「政治・経済」の教科書が扱っていない事項が問われた。条件に合わせて正解を確定する思考力を試す問題が出題された。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	記述 選択 論述	【政治分野】 人権保障の歴史	人権保障の歴史と日本における人権保障に関する知識を問う設問を中心とした構成。全体的に基本事項が問われているが、問2はフランス人権宣言に関する、問5は日本の最高裁判所の判決に関するやや細かい事項が問われている。問8の論述問題は、様々な正解が予想される。	やや易
II	記述 選択	【政治分野】 地方自治	地方自治に関する知識を問う設問を中心とした構成。全体的に基本事項が問われている。問4は設問で提示された条件に当てはまる具体例が問われており、思考力を試す問題である。問5は常識で判断できるだろう。	やや易
III	記述 選択	【経済分野】 国内総生産と消費関数	国内総生産(GDP)に関する知識と消費関数の理解を問う設問を中心とした構成。問3・問4・問5は「政治・経済」の教科書が扱っていない事項であるが、設問の記述を前提として論理的に推論を行えば正解を選ぶことができるだろう。問6の計算問題は易しい。	標準
IV	記述 選択 論述	【経済分野】 労働問題	労働問題に関する知識を問う設問を中心とした構成。基本事項の理解を問う問題が中心である。ただし、問5は時事問題に関する細かい知識が問われており、受験生にとっては難問である。	やや易

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

基本的な知識を問う問題はすべて正答できるように教科書や用語集の重要事項を押さえておく必要がある。さらに得点を伸ばすためには、知識の丸暗記ではなく、理解を踏まえた知識の整理が必要である。また、本学部では、政治・経済に関する時事的な動向をめぐる問題も出題されるので、日頃から新聞やテレビのニュースについても関心を持つようにしましょう。さらに、論述問題が毎年出題されるので、他学部や他大学で出題された過去問の論述問題を解くなどして、論述問題の解法を習得しておこう。